ぐんま経済新聞
発行所 群馬経済新聞社
本　社（郵便番号371-0017）
前橋市日吉町3-31-17 3F
電話代表（027)289-0990
FAX（027)289-3045
郵便振替口座 00390-5879
©群馬経済新聞社 2020

Main Articles

アニメとコラボレーション

群馬サファリパークは、テレビアニメ「群れなせ！シートン学園」とのコラボレーションを実施している。【2】

明浜みかん専門店がオープン

サティスファクトリーは、愛媛県西予市明浜町で収穫されたミカンのみを販売する「スリーサンズ高崎小鳥店」をオープンした。【7】

企画特集

リース・レンタル特集 4面

今週の掲載データ

●知事会見　2・3面
●建築計画情報　5・6面
●県内不動産競売予告情報〈農地〉　7面
●隣県不動産競売予告情報　8～10面
（さいたま地方裁判所川越支部、8・9面　さいたま地方裁判所越谷支部　10面）

20億超投じ全面リニューアル

屋上に大浴場、露天風呂付き客室も

ホテルグランビュー高崎

「ホテルグランビュー高崎」（高崎市柳川町）を運営するグランビュー（木本高一朗社長）は、同ホテルを全面改装し、8月にもリニューアルオープンする。20億円超を投じ、新たに屋上に露天風呂を備える大浴場を設けるほか、客室も一新、露天風呂付きの特別室なども用意する。一方、機械式の立体駐車場も取り壊し、自走式の駐車場を整備する予定だ。

同ホテルは高崎ビューホテルの営業終了に伴い、ドンレミーのグループ会社で駐車場管理のココパルクと地元業者が共同出資し17年9月に設立したグランビューが引き継ぎ、18年1月から新たに営業を始めた。今回の全面改装は、ホテル存続に当たって課題となっていた建物の耐震補強工事に併せて行ったもの。

1階にはチェックインカウンターのほか、クロークカウンター、喫煙室などを増設。自動チェックインシステムを導入し、宿泊者の利便性向上を図る。

同じく1階のレストランは従来の2店舗を1店舗に統合し、「グランシエル」としてオープンする。当面は宿泊者のビュッフェ朝食スペースとして活用し、その後、ランチ、ディナー営業を始める。

5～8階までの客室部分は東京オリンピック・パラリンピックの開催やGメッセ群馬の開業などを視野に、6月に先行オープンする。客室数はこれまでの115室から112室に変更する。

部屋のタイプはシャワーのみのシャワーシングル（8室）、エコノミーシングル（8室）、スタンダードシングル（67室）、ダブル（14室）、ツイン（8室）など。

全部屋のベッドはシモンズ製でテレビは49インチ以上、ズボンプレッサー、電子レンジ、加湿機能付き空気清浄機なども常設。宿泊料金はプレオープン時は6000円台からを予定している。

特別室は7室で40～60平方メートルの広さ。このうち1室は露天風呂付きとする。これまで活用していなかった屋上には大浴場を整備する。榛名山など周囲の景観や、花火大会などの際も楽しむことができると見込んでいる。

特別室の完成イメージ

宴会場や4階部分のレストランなどは改装することなく、現在も利用が可能。

また、ホテル北側の機械式立体駐車場「パーク108」は老朽化が進んでいたことや、出庫者が集中すると待ち時間が長くなっていたこと、コスト削減などの面から、自走式に刷新する。2階建て3層で駐車台数は約100台。2月から解体工事を始め、10月の稼働を目指している。

同社では「ビジネス関連だけでなく、ファミリー層、外国人観光客、アスリートなどにも利用してもらいたい。部屋ごとに異なる内装にするので、何回も来て楽しんでもらいたい」としている。

（湯浅順一）

図面の作成から赤石社長が一人で完成させた

カスタマイズが可能

三山テクノス

防災シェルター「AEGIS」開発

多発する自然災害への備えに

食品機械などのステンレス加工を手掛ける三山テクノス（伊勢崎市赤堀今井町2－1044－11、赤石祐司社長☎0270～61～1359）はこのほど、個人向け小規模防災シェルター「AEGIS（イージス）」を開発、2月中にも販売を始める。11、12日に同社で開いた完成展示会には地域住民ら100人以上が訪れ、特徴や機能などを体感した。

（臼井晃斗）

同社では95年1月に発生した阪神淡路大震災をきっかけに、約15年前から一般家庭用防災シェルターの開発に着手。当時は創業間もなく設備も整っていなかったことから、図面の作成までで開発は一時中断した。

しかし、台風や地震など自然災害が増加する中で、避難所に避難する途中に被害に遭う人も多くいることを知り、防災シェルターの必要性を痛感。敷地内に防災シェルターも製作可能な溶接工場が完成するなど設備が整ったことから、19年8月に開発を再開した。

開発再開後の10月には台風19号により高崎や太田などで床上・床下浸水被害が発生。富岡では土砂崩れによる家屋の損壊など、本県でも多くの被害が出た。この状況を見て「必ず完成させなければいけないという思いが強くなった」と赤石社長は語る。

12月に完成した防災シェルターは、ギリシャ神話で「鉄壁の防御」を可能とする万能の盾を意味する「AEGIS」と命名。一番弱い部分でも14トンまでの圧力に耐えることが可能という。

サイズは2、3人用から5、6人用までの4通りがある。最も小さいシェルターの外形寸法は、横幅3777ミリ×奥行2300ミリ×高さ2400ミリで、居住スペースは約2・5畳。2段ベットや備蓄棚などが設置される。

出入り口は側面ドアと上面ハッチがあり、希望により側面ドアは4カ所、上面ハッチ2カ所までの増設が可能となる。出入り口のドア部分は、水に沈め1週間の水漏れ試験を実施。組み立て後には、シェルター内を真空にし空気漏れがないかを徹底的に検査。さらに水圧がかかることでより密閉される仕組みとするなど、水漏れ防止にこだわった。

このほか、外部を確認できる監視カメラやシェルター内に避難していることを伝える表示灯、リチウムバッテリーなど、災害から身を守るためのさまざまな装備が整っている。価格は1000万円から2000万円ほど。

赤石社長は「世の中の役に立つ、人を助けることができるものが完成した。自分たちでこれだけのものを作ることができたことは、他の中小企業にも勇気を与えられると思う。途中で断念せずよかった」と話している。

with
FCMG FUJII CONSULTING MANAGEMENT GROUP
株式会社 藤井経営
伊勢崎市宮子町 3220
TEL.0270-25-7696
fcmg.co.jp

高渋線BP沿いに拡張

群馬ダイハツ自動車 地域の特色生か

渋川市行幸田の新店舗（イメージ）

県内で14店舗を展開する群馬ダイハツ自動車（前橋市大渡町、佐藤哲也社長）は、渋川店（渋川市渋川1125－1☎0279～23～1836）を約2倍の規模に拡張し、同市行幸田313－1に移転、ゴールデンウイーク明けにもオープンする。

現渋川店は、国道17号線鯉沢バイパスと国道291号線の分岐点にあり、下り方面からしか入店することができないのに加え、85年のオープンで35年目を迎え老朽化が進んでいたことから移転を決めた。

新店舗は県道高崎渋川線バイパス沿いで、近隣にはベイシア渋川店や渋川警察署などがある。県内最北の店舗として渋川を中心に沼田、みなかみ、中之条など広範囲をカバーする。

敷地面積は4513平方メートル。

社長訪問

オンリーワンの

18歳から防水工職人として働く吉沢さんは、県内でも厳しいことで知られる親方の下で育った。23歳で独立し現在職人歴22年。社長となった今でも職人気質で、仕事のことが頭を離れない。常務でもある妻の織江さんと自宅で仕事の話をする

前

青

た

小

れ

「

日

い

が

た

の

題

方メートル

で、

方メートル

平方メートル

51平

事務所

フルー

新店

「地域

店舗

ツ販社

のモデ

山や橋

楽しめ

エスペ

ーフに

フィッ

どを

また、

タイル

「ハン

ダンプ

コーナ

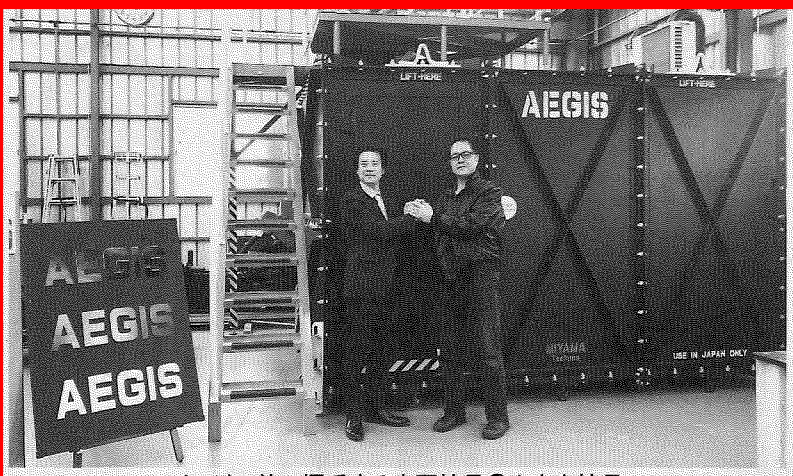
貨や食

販売す

米国製シェルターの特約店に

防災シェルターの認知度向上へ

三山テクノス



イージス前で握手する赤石社長㊧と吉山社長

食品機械などのステンレス加工を手掛ける三山テクノス（伊勢崎市赤堀今井町2－1044－11、赤石祐司社長☎0270－61－1359）は17日、輸入住宅の建設や米国防災シェルターを輸入販売するアンカーハウジング（川崎市川崎区、吉山和實社長）と特約店契約を締結。群馬で唯一の代理店として防災シェルターを販売する。

アンカーハウジングは20年以上にわたり輸入住宅事業を手掛けているハウスメーカー。18年5月から防災シェルター事業を始め、米国アトラス・サバイバル・シェルターズ社製の防災シェルターを輸入、販売している。

北海道から鹿児島まで33の特約店があり、三山テクノスは34社目。関東では他に埼玉に5社、東京に3社ある。これまでに13基を日本国内で販売した。

三山テクノスは個人向け小規模防災シェルター「AEGIS（イージス）」を12月に開発し1月には完成展示会を実施した。展示会の数日後、SNSでイージスの存在を知った吉山社長が赤石社長に連絡。吉山社長は1年ほど前から日本製のシェルターを探しており、「これは本物だ」と直感したという。

イージスは水に沈め1週間の水漏れ試験を実施するなど、水漏れ防止にこだわった水害に強いシェルター。一方、アンカーハウジングが取り扱う米国製シェルターは水害には対応していない。近年増加する台風などの水害に対応するためには、イージスのような水害に強い防災シェルターが必要となる。

吉山社長は「水害に強いイージスと米国製シェルターのノウハウを合体したら世界最強のシェルターが製造できる」と考え、視察後すぐに特約店契約を結んだ。

両社間ではイージスの販売契約も進めており、締結後には全国の代理店で群馬県産防災シェルターが販売される予定だ。

赤石社長は「シェルターの認知度はまだまだ低い。代理店として群馬の人にシェルターを広め、大きな被害が出る前にできるだけ早く事業を展開していきたい」と話している。

（臼井晃斗）

今週の注目ワード

CHECK!

「ライフサイクルアセスメント」

ライフサイクルアセスメント（LCA）とは、ある製品・サービスのライフサイクル全体（資源採取、原料生産、製品生産、流通・消費、廃棄・リサイクル）または、その特定段階における環境負荷を定量的に評価する手法のこと。投入されるエネルギー量や材料の使用料、排出される二酸化炭素などを算出して環境負荷を洗い出す。

LCAによって、製品やサービスのどの段階で環境負荷が高いかを割り出し、その部分の環境負荷を重点的に低くしていくことで、効率的に環境負荷を下げることができる。

例えば機能が同じ製品Aと製品Bの二酸化炭素排出量を比較した場合、生産段階のみに着目すると製品Bの方が排出量が少ないとしても、ライフサイクル全体を通すと製品Aの方が排出量が少ない場合がある。

この原因が製品Bの処理・処分段階で二酸化炭素の排出量が多いためだとすると、製品Bの処分方法を排出量の少ない方法に改善できれば環境負荷を削減することができる。

製品のライフサイクル全体での環境負荷を明らかにすることにより、環境に配慮した製品・サービスを検討することができる。LCAは環境負荷をより包括的に把握する手法として注目されている。

サイバーセキュリティセミナー

群馬県警察など

群馬県中小企業等サイバーセキュリティ支援連絡会と群馬県警察は21日、サイバーセキュリティセミナーを群馬産業技術センターで開き、約120人が参加した。

情報処理推進機構（IPA）セキュリティセンターの磯島裕樹氏が講師を務め、「情報セキュリティの最新動向と中小企

ハ

Ticc

工房で作業する

第5

県

県は群馬県産業支援機構との共催で17日、創業プラン実現支援塾「創業プラン発表会」を群馬産

月に一度の「塾生勉強会・交流会」などを通して、創業プランをブラッシュアップし、「創業プラン発表会」でプレゼンテーション、展示交流会でビジネスマッチングを図っている。